

# シルガード9のご案内

子宮頸がんは、妊娠可能な年齢の女性に多く、日本では1年に薬10000人が罹患し、約2800人が無くなり増加傾向にあります。

2030年までにHPVワクチンと子宮頸がん検診が普及すれば、今世紀中に子宮頸がんを撲滅可能と言われています。

日本では現在、小6から高1までの女子が無料で公費による接種が可能です。この場合、子宮頸がん高リスク可がの2つの型と低リスク型の2つの型を含む4価ワクチンで、子宮頸がんの原因の約70%を予防できます。

HPVワクチンは世界35カ国以上が9価ワクチンで、男女の接種が最も多い現状です。9価ワクチンは、4価に加え、高リスクが他の5つの型を含み、子宮頸がんの原因の90%予防できます。ただし、今回の承認は女性のみで自費での接種となります。45歳までに接種すると良いでしょう。

以前マスコミ等によく取り上げられた慢性疼痛や運動器の障害等の「多様な症状」はワクチンを接種した群と接種していない群を比較して差はなかったため、ワクチンとの因果関係は認めないとの結論に至っています。

また、厚生労働省が承認下ワクチンの為、重篤な副反応があった場合は公的な補償制度が適用されます。

日本では9価ワクチンのシルガード9が2月24日に発売となり、当院でも接種可能です。